



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users/2/kansinko/>

平成20年11月

事務局 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療センター戸山病院臨床検査部内
発行者 三浦隆雄
編集委員 渡司博幸・峰岸正明・深澤文子
久間修平
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

平成20年度 関信支部新役員



山崎 沼田 益田 川村 深澤 林
会田 峰岸 久間 北沢 吉田
渡司 三浦

支 部 長 挨 拶

NHO 東京病院 三浦隆雄

支部長3年目となりますが、これまでの支部活動を更に継続発展させるよう新たな気持ちで会務に努めてまいりますので、新執行部一同に何卒ご支援ご協力お願い申し上げます。

過去2年間の支部活動では、各種研修会、支部学会、退職会員を囲む合同交流会等、新たな取り組みを企画試行してまいりました。皆様のご協力のおかげを持ちまして多くの会員参加が得られるようになり、とくに支部学会の参加者数は、2年連続で371名を記録しました。おそらく36回を数える支部学会の歴史のなかで過去最高の人出となりました。これもあれもあつた時も、臨床検査専門職や技師長協議会等との意見交換と連携を深めてきた成果であります。

今後の支部活動でも、なお一層の会員相互の連携協力体制を継続し、共に参加することの意義を高めてまいります。支部活動を通してお互いの情報を交換し合い、よい刺激を受け合い、それぞれの業務や将来のために日々研鑽することが、永遠の課題「臨床検査部門の質的向上と活性化」につながるものと確信します。

さて、まもなく国立病院総合医学会が東京国際フォーラムで開催されます。シンポジウム「病院運営と臨床検査部門～臨床検査の質的向上と経営効率の確立を目指して～」は、今後のわれわれの方向性を聞き（訊き）とらえと共、臨床検査部門の結束力と存在感を示すために時宜を得た絶好の大テーマであります。会を盛り上げ今後の糧とするため、満席となるほどの多数のご参集にご期待申し上げます。

終わりに、松林副支部長はじめ退任されました前役員の皆様、会務大変にお疲れ様でございました。また今後も率先してのご支援ご意見よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

新役員 役務分担

支部長

(総括) 三浦隆雄 東京病院

副支部長

(学術・渉外) 吉田和浩 災害医療センター

副支部長

(広報・渉外) 渡司博幸 精神・神経センター病院

事務局長

(事務局) 林 亮 横浜医療センター

理事

(事務局総務) 北沢敏男 国際医療センター戸山病院

(事務局総務) 益田泰蔵 がんセンター中央病院

(事務局会計) 沼田正男 相模原病院

(学術) 川村公彦 がんセンター東病院

(学術) 山崎茂樹 成育医療センター

(学術) 会田春光 千葉東病院

(広報・渉外) 深澤文子 東京医療センター

(広報・渉外) 峰岸正明 下志津病院

(広報・渉外) 久間修平 栃木病院

会計監査

小松和典 長野病院

会計監査

川畑久 甲府病院

平成20年度 第36回定期総会議事録（要旨）

日時：平成20年9月6日（土）17時10分～17時50分 場所：国立国際医療センター戸山病院国際協力局 5階会議室

1. 開会の辞 渡司事務局長

2. 議長選出

- 1) 議長 原 和子（国立病院機構西群馬病院）
- 2) 書記 小松 久人（国立成育医療センター）
久間 修平（国立病院機構栃木病院）

3. 支部長挨拶

平成19年度活動内容および平成20年度事業方針についてご審議よろしくをお願いします。

4. 審議事項

- 1) 平成19年度経過報告について（抄録集付定期総会議事案書参照）
渡司事務局長から総括および事務経過報告、各部より経過報告が行われた。
渉外部 深澤理事
学術部 益田理事
広報部 竹田理事
- 2) 平成19年度会計報告（別紙配布資料参照）
北沢理事より報告
- 3) 平成19年度会計監査報告
小松会計監査より報告
平成19年9月5日（土）国際医療センター戸山病院において下記の通り会計監査を行いましたので報告いたします。
①監査内容：平成19年度一般会計
（平成19年9月1日～平成20年8月31日）
②講評：一般会計の予算執行は適正であり、収入支出台帳をはじめ帳簿整理、証拠書類、貯金通帳、現金管理等すべて適正に行われていることを認めます。

【質疑応答】

<フロアーからの質疑なし>

<平成19年度経過報告、平成19年度会計報告、平成19年度会計監査報告について拍手多数で承認された。>

4) 第1号議案

平成20年度事業方針（案）について各部より提案（抄録集付定期総会議事案書参照）

総 括 渡司事務局長
事務局 渡司事務局長
学術部 益田理事
渉外部 深澤理事
広報部 竹田理事

5) 第2号議案（別紙配布資料参照）

北沢理事より平成20年度予算(案)について提案

6) 第3号議案

三浦支部長より支部役員1名の増員について提案

【質疑応答】

<フロアーからの質疑なし>

<第1号議案、第2号議案、第3号議案について拍手多数で承認された。>

7) 第35回国臨協関信支部学会特別会計報告

北沢理事より報告（会場でプロジェクターにて報告）

<第35回国臨協関信支部学会特別会計報告について拍手多数で承認された。>

5. 役員選出および新旧挨拶

太田役員推薦委員長より役員候補者が発表された。

支部長

三浦 隆雄 国立病院機構東京病院 （留任）

副支部長

吉 田 和 浩 国立病院機構災害医療センター （留任）

渡 司 博 幸 国立精神・神経センター病院 （新任）

事務局長

林 亮 国立病院機構横浜医療センター （新任）

常任理事

北 沢 敏 男 国立国際医療センター戸山病院 （留任）

益 田 泰 蔵 国立がんセンター中央病院 （留任）

川 村 公 彦 国立がんセンター東病院 （留任）

深 澤 文 子 国立病院機構東京医療センター （留任）

峰 岸 正 明 国立病院機構下志津病院 （新任）

会 田 春 光 国立病院機構千葉東病院 （新任）

沼 田 正 男 国立病院機構相模原病院 （新任）

山 崎 茂 樹 国立成育医療センター （新任）

久 間 修 平 国立病院機構栃木病院 （新任）

会計 監査

小 松 和 典 国立病院機構長野病院 （留任）

川 畑 久 国立病院機構甲府病院 （留任）

役員推薦委員

太 田 雅 司 国立病院機構久里浜アルコール症センター（新任）

原 田 正 一 国立病院機構西埼玉中央病院（留任）

名 賀 秀 己 国立病院機構下志津病院 （新任）

<拍手多数で承認された。>

・退任役員挨拶

松林副支部長：今日で終わりにになります。この期間本当に多くの方々にお世話になりました。役員をやってよかったと思っています。今後は役員をやったOBとして関信支部を支えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

・新役員挨拶

三 浦 支部長：今まで以上に頑張っていきます。ご協力のほどよろしくお願いします。

6. 議長、書記解任

7. 閉会の辞 渡司事務局長

議事録作成 小松久人・久間修平



旧役員の方々 お疲れ様でした

第36回 関信支部学会 総会を終えて

第36回国立病院臨床検査技師会関信支部学会・総会を9月6日(土)、国立国際医療センター戸山病院で開催しました。学会のテーマは「創造～検査の未来を見つめて～」であり、これまでにない新しい支部独自の学会運営をめざして準備してまいりました。当日は例年になく天候不順が続く中、幸いにも好天に恵まれ全関信支部会員の約70%となる371名が参加して、大盛況な学会となりました。今学会では、抄録の冊子を全会員に配布することとしたため、各会場では抄録を手に真剣に発表を聞く会員の光景が印象的でした。

一般演題は昨年を上回る49題で、それぞれの会場では日頃の研鑽が伺える、充実した内容の発表が多くみられ、全体的にもレベルの向上が強く感じられました。一般演題終了後には昨年と同様に技師長会総会が開催されました。

学会セミナーは輸血、生理機能検査、病理、緊急検査と4部門分け、それぞれのテーマに沿って演者から熱のこもった発表が行われました。同時時間帯に重複したセミナーの開催もあり、会員の分散と盛り上がり心が心配されましたが、どの会場も熱気と活気で溢れていました。

特別講演は国立病院機構本部医療部長の山本光昭先生に「わが国の医療政策の動向と臨床検査技師に期待するもの」

NHO災害医療センター 副支部長 吉田和浩

と題して、医療情勢と国立病院機構の今後について貴重な内容のご講演をしていただきました。

学会セレモニーには、来賓として国立病院機構関東信越ブロック事務所から加藤医療課長と永井臨床検査専門職、そして国立病院臨床検査技師協会からは大貫会長にご臨席を賜りご挨拶をいただきました。続いて、学会賞は川畑選考委員長より選考経過と結果が発表され、学会学術奨励賞と学会特別賞の各1演題が表彰されました。また、関信支部表彰は各地区会から推薦を受けた6名を表彰し、記念品と賞状を授与いたしました。

定期総会は議長に原和子氏(国立病院機構 西群馬病院)を選出し、平成19年度経過報告に続き会計報告と監査報告後、平成20年事業方針(案)・予算(案)・第3号議案(支部役員1名の増員について)を提案して全てに承認を頂きました。最後に太田役員推薦委員長より新役員が発表された後承認を頂き総会は終了しました。その後、戸山サンライズに場所を移して懇親会が開催され、山本光昭先生のご参加のもと、イベントなどで大変盛り上がりしました。

最後に、今学会の開催にあたりご協力を頂いた国際医療センター戸山病院の関係各位、学会運営にご協力を頂いた会員の皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。

▶受付風景



▶総会



◀特別講演
山本光昭先生



◀特別講演会場



「第36回国臨協関信支部学会・特別講演」要旨 ―感想を添えて―

NHO村山医療センター 菊池寿美子

平成20年9月6日(土)第36回国臨協関信支部学会の特別講演では、国立病院機構本部医療部長の山本光昭先生をお迎えし「わが国の医療政策の動向と国立病院機構の今後の取組み―臨床検査技師に期待するもの―」と題してご講演いただきました。

講演の冒頭、自己紹介で「茨城県保健福祉部時代には検査技師の方々と交流があったのですよ」とのお言葉があり、会場の雰囲気是和んだことが印象的でした。

講演ではまず「保健医療を取りまく環境の変化」について、疾病構造の変化・少子高齢化・価値観の多様化・経済の進展と低成長・国際化と情報化の進展・科学技術の進歩・健康危機管理事例の多発という視点からお話があり、改正医療法にもふれられ、ここ数年の社会情勢の変化にマッチした新しい医療の必要性が示されました。医療現場で働くものとしては、「大きな設計図」とともに「新しい活力剤」

を頂いたように思われます。平成16年に大多数の国立病院・療養所は国立病院機構として再出発し、現在も進化し続けています。この現実には機構における医療の方向性として日々の業務で実感できますし、実践しているところです。「臨床検査試薬の共同入札」については、まさに渦中であり、経営効果と医療の質向上への貢献に繋げる方策に、山本医療部長から大いなるエールを送られたと思います。

最後に、この特別講演では第二部があり、医療部長山本先生が『利酒師』に変身して、「日本酒を楽しみましょう」とのサプライズ講演がありました。学会終了後、戸山サンライズでの懇親会では「実習」ができ、カルチャーセンターも真っ青と感じた会員も多いのではないのでしょうか。

この誌面をお借りして、ご多忙の中、ご講演いただいた機構本部医療部長山本先生には改めてお礼を申し上げます。

第36回国臨協関信支部学会 学会学術奨励賞及び学会特別賞選考委員会報告

選考委員長 川 畑 久 (NHO甲府病院)

今学会の選考委員は技師長協議会より岩下理事、国臨協本部より宮原理事、国臨協関信支部より吉田副支部長、栃木地区会より猪原会長、山梨地区会から私を含め5名の委員で構成されております。

今年度の演題数は49題、部門別で見ると生理部門14題と最も多く、その中で超音波検査関連が8題でありました。次に病理部門10題、微生物部門7題、臨床化学部門7題の順でありました。

各賞の選考は選考基準に則り、一次選考として5名の選考委員により施設名・発表者をブラインドした抄録について研究内容・完成度等を審査・評価採点し高得点上位各3題を選考しました。

二次選考では発表を拝聴し抄録の訂正の有無、時間配分、スライドの内容、発表態度、質疑の対応等を対象に審査し評価採点を行い、一次選考・二次選考の評価合計点数の高得点演題を各1題選考致しました。

学会学術奨励賞は新谷和之技師他 (NHO千葉東病

院) が発表による「塗抹標本作製時における固定後の抗酸菌発育について」選考理由として、日常業務の中で従来の方法に疑問を持って検討し結果を明らかにしたことに意義がある。今後の業務にとって安全対策の必要性を提唱していることを評価致しました。

学会特別賞は阿部真利技師他 (NHO横浜医療センター) が発表された「当院検査科の糖尿病チームケアユニットへの取り組み～病診連携の効果～」選考理由として、施設で取り組んでいる活動であるが、取り組み事項において計画的に進め内容の解析、課題等もはっきり見極めていく。検査技師が参画できるチーム医療・地域医療への取り組みとして参考となることを評価致しました。

最後に選考委員会として、今学会において発表された演題について関連学会誌への投稿をお願いしたいと思ひます。

・・・学会学術奨励賞を受賞して・・・

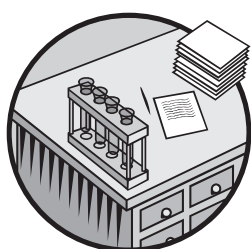
NHO千葉東病院 新 谷 和 之



この度、国臨協関信支部学会にて多くの優秀な演題の中から学術奨励賞に選出されたことを光栄に思っております。学会の企画運営に携われ発表の機会を与えてくださった関信支部役員ならびに関係者の皆様、また発表するにあたり貴重なご意見、ご質問、ご協力、激励をくださった諸先輩方に厚く御礼申し上げます。

今回、日頃安全面ではあ

まり注視されていない塗抹標本上の抗酸菌に着目し検討したことから、抗酸菌の適応力の高さを再認識することができました。一卵性双生児における肺結核発症率は二卵性双生児の場合と比較し高いことが報告されており、結核に罹患しやすい体質があると考えられています。特に日本人は結核が自然淘汰される途中で化学療法時代に入ったため、自然淘汰後に葉が開発された西洋人と比較し、結核に弱い体質の者が残存したという説もあります。そのような背景の中で、結核菌を直接取り扱う我々検査技師にとって様々な安全対策が必要であり、今回の発表が安全対策を講じる上で一つの足掛かりになればと願っております。今後もこの賞に恥じぬ検査技師を目指し精進していきたいと思ひますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



・・・学会特別賞を受賞して・・・

NHO横浜医療センター 阿 部 真 利



この度、第36回国臨協関信支部学会におきまして学会特別賞をいただく事ができ、大変光栄に思っております。

今回発表させていただいた演題は「当院検査科の糖尿病チームケアユニットへの取り組み～病診連携の効果～」です。当院は2002年から「医師主導型の医療からの脱却」を目標に糖尿病患者ケア活動に取り組んでおり、検査科もこの数年間のうち

に、データを提供するだけではなく患者の近くへ赴いて医療を提供する関係へと変化してきました。今回、病診連携になっている糖尿病患者のHbA1cが、治療を重ねていくうちにどのような効果を示すかを検討いたしました。糖尿病は日々の血糖コントロールが大変重要になりますが、患者自身の治療への意識が大きく関わってきます。検討で良好な結果をもたらしたのは、当院診療所相互間の円滑な連絡・指導の積み重ね・患者自身の治療への努力であると考えられます。

さて、今回の受賞は自分ひとりの力ではとても得られぬものでした。今回の発表に当たり、多くの方々に助けていただきました。抄録、スライド作成、発表など何もかも初めてのことで戸惑う私に細部に渡りご指導下さった中島技師長、林副技師長、そして検査科の方々のご協力に心より感謝しております。

今後も、病診連携を通じて糖尿病患者を地域全体でサポートする体制に更に力を入れ、患者が治療をしていく上で少しでも励みになるように検査科としても更に努力・協力をしていきたいと思ひます。また、この特別賞の名に恥じぬよう私自身、知識・技術の向上を目指したいと思ひます。

最後に、お世話になりました国臨協関信支部役員、関係の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

支部表彰を受賞して

NHO霞ヶ浦医療センター

笹 村 強



第36回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂き有難うございました。三浦支部長をはじめ役員、会員の方々に厚く御礼申し上げます。

この学会の前身は36年前の昭和48年に第1回研究会と言う名称で、東京第二病院で開催されました。当時、私は国立小児病院に在籍し良き上司、先輩に励まされこの研究会で発表させて頂きました。演題は「反応速度測定装置の検討」で、生化学検査は用手法から自動化への移行期で技術の発展に伴って日々前進し検査の花形でした。そのような環境の中で仕事が出来たことは嬉しい限りであります。

また、国立病院は施設間の交流も盛んで、私も東京から始まり千葉、神奈川、新潟、茨城と1都4県の9施設で働かせて頂き多くの仲間を得ることができ、その地域の風土に合った体験もさせて頂きました。新潟県では農業公社が行っている米作りに応募し今年で9年目になります。神奈川県では農業公社が行っている中高年ホームファーマーに参加しています。参加者は現役を退職された方々で夫婦で汗を流しています。農業を極力使わない野菜作りに挑戦し、いつも新鮮な野菜を収穫しています。

30数年間検査技師としてやってこれたのは良い上司と良き先輩は勿論、同じ施設で支えてくれた副技師長・主任・技師のお蔭と深く感謝しております。

関信支部会員の皆様のご健康とご活躍、支部活動の益々の発展を祈っています。

支部表彰を受賞して

NHO西群馬病院

原 和 子



9月6日第36回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂戴しました。ありがとうございます。推薦いただいた群馬地区会にもお礼を申し上げます。

昭和50年のがんセンター病院臨床検査部にお世話になって以来、33年間多くの先輩同僚後輩に恵まれ、元気に仕事を続けてこられたことを心から感謝いたしております。

関信支部学会には若い頃に何回か生化学の演題を発表しましたが、演題発表よりも他施設の方々と情報交換がおもしろかった覚えがあります。平成15年から2年間副支部長を務めさせて頂きましたが、若い理事達のがんばりが印象的で、頼もしく感じたものでした。日常業務のかたわら、支部活動を担っている方々に篤い感謝とエールを贈りたいと思います。

団塊世代の大量退職時期となり、技術やノウハウの伝承が問題になっていますが、検体検査の世界では用手法から多くが自動化、システム化されテクニックの伝承は不必要となりつつあります。しかし検査データの後ろには患者さんの苦しみ、悲しみ、痛み、悩みがあることを理解して、役に立つ正確な検査を迅速に行うという気持ちを伝承したいと思う今日この頃です。

最後に、会員の皆さまのご健康とご活躍を祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。

支部表彰を受賞して

NHO村山医療センター

吉 田 正 勝



この度、第36回国臨協関信支部学会において支部表彰をいただき有難うございました。

昭和51年8月1日国立王子病院に採用され33年間、5回の転勤をへて、6施設にお世話になりました。この間には、良き上司、先輩そして同僚にも恵まれ、副技師長として4施設、10人の技師長にご指導・ご厚情を頂きました。

支部とのかかわりは昭和51年8月に医療センターで開催された第4回の支部学会からです。

国立に採用され1ヶ月後の学会でした。各施設の発表、学術講演、特別講演を聴いて衝撃を受け、民間の経験が、国立病院で生かすことが出来るのか、国立の技師として続けていけるのかと不安を抱きながら、最寄りの駅まで歩いたことが思い出されます。

その後、支部の理事として会計と渉外を計3年間担当させて頂きました。支部行事としての勉強会開催、学会準備はもちろんですが、地区会にも参加させて頂き、新潟地区、栃木地区、群馬地区会に理事達が車に乗り合い大勢で参加したこと事が思い出されます。大変、思い出深い経験をさせて頂きました。

国立病院から独立行政法人、業績評価と変化の多い時期を何とか勤務することが出来、このような賞まで頂き関信支部の皆様、役員の皆様、職場の皆様に関心から感謝いたします。

支部表彰を受賞して

NHO神奈川病院

石 川 修 子



第36回国臨協関信支部学会において支部表彰を戴き有難うございました。

旧国立東京第一病院(現国際医療センター戸山病院)に昭和45年に採用され6回の転勤を経て4施設において38

年間という長い間、良き上司・諸先輩方の指導はもとより、一緒に働いた職場の同僚に恵まれ、今日を迎えることが出来たこと改めて感謝している次第です。就職当時は、生化学検査室に自動分析機一台(当時はまだ珍しい)稼働していましたがマニュアルが中心の検査室でした。キット化、自動化が進むなか試薬の検討・機器の評価等をまとめ学会で報告した事が懐かしく思い出されます。現在は、生化学分野においては標準化が進み施設間差も是正され精度が向上してきており、さらに微量化、迅速化にも対応してきています。臨床検査技師の役割も時代とともに移り変わり、稼働率が良い検体部門主体であった検査技師が生理部門にシフトしています。検体部門に関わってきた自分はこれから何が出来るのだろうかと考えていた時、上司からチーム医療に取り組む指導を受け糖尿病療養指導士の資格をとる切っ掛けとなりました。関信支部の研修会にも参加させて頂き、それぞれ自己研鑽している仲間にも励まされました。患者により近い業務を行うようになり、患者に対する接遇を含め色々経験する機会となり、今迄以上にチーム医療の大切さを感じております。我々を取り巻く環境は独立行政法人国立病院機構に移行し、独立採算という厳しい環境におかれています。会員皆さんが力を合わせてチャレンジすれば新しい道が切り開けると信じています。次の時代を担う国臨協関信支部役員、会員の皆様のご発展とご活躍を心より祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。

ます。

支部表彰を受賞して

NHOさいがた病院

横 田 彰



この度は関信支部表彰の荣誉に浴し、ご推薦頂いた関係各位に深謝申し上げます。年を重ね役職に就いてからは職務に忙殺され、関信学会に直接関わることも少なくなり、もっぱら若い諸君の学研に対する意欲を離れた場所から応援するのみの存在となっておりますが、新潟地区の方では長年役職を努めさせて頂き、特に新潟地区8施設が統廃合により消えゆく直前に、県内8施設の方々からそれぞれの施設に対する思いを寄稿して頂いた、新潟地区15周年記念誌の発行は、私の生涯の宝とする文集であります。今となっては二度と顧みることの出来ない、新潟県内国立病院の歴史を物語る貴重な冊子となったと、当時の地区会長として、発案し、多くの方々からご協力頂き発行できた事を、地区会組織の仕事ではありますが、一仕事を成し得たと自負する処であります。若い頃は研究心も旺盛で滅多な事では人に引けはとらないと自惚れてもおりましたが、職責が重くなってくると共に関信学会にはいささか疎遠な存在でしたので、この度の表彰はそのような下部地区会組織での活動を評価して頂いたものとして、謹んでお受け致します。

支部表彰を受賞して

NHOまつもと医療センター

北 原 一 司



平成20年9月6日国際医療センター戸山病院で開催された第36回国臨協関信支部学会において、表彰の荣誉に恵まれましたことは、支部役員をはじめ、会員の皆様のおかげと、感謝致します。

表彰されたことをきっかけに、この学会についての思いが頭の中を駆け巡りました。

今から37～38年前当時勤務していた国立横浜病院の中橋勇次郎技師長に、「若い君たちが勉強して、その成果を発表する機会が与えられたら、もっと張り切るか。」と言われ、なんと答えたかは覚えていませんが、暫くして研究会が発足し、研究発表会が開催されそれが後の厚生省臨床検査技師会（現国臨協）でした。

22～23才の頃のことですが、検査は全て用手法でピペット、試験管が大量消費され1chの自動分析機が登場し始めたのもこの頃で検査科の飛躍の時期でありました。研究発表は毎年行うのが当たり前の様な時期でもありまして、支部学会もよく利用させていただきました。その後、機会あって支部理事、支部事務局長、本部事務局長等の厚臨協（現国臨協）役員も務めさせていただいたのは、若い頃言われた中橋技師長の言葉が思いだされたからでした。夜中までかかった研究、学会発表での直前のドキドキ感、役員での理事会や学会準備などが楽しい思い出となっています。

技師長となって以降、自らの研究と若い人の発表を手助けすることなど、あまり力が発揮されたとは思えず、力不足感に囚われていました。

改めて、皆様への感謝を申し上げますとともに支部学会が益々発展するよう願います。

関信支部学会 各セミナー座長から

関信支部学会 生理機能検査セミナー座長から

NHO 東京医療センター 高橋 祥 慈

今回の生理機能検査セミナーは第1会場という大きな場をご用意頂き、多くの会員の皆様とともに講師の先生方と活力あるセミナーを共有することができました。

今回のテーマ「小児期疾患における生理機能検査」につきましては幅広い知識が必要とされている生理機能検査業務の中で限定を致しましたが、講師の先生方には共通して各領域での基礎を入れて頂いた事により若い会員の方々にも分かりやすかったのではないかと思います。まず、「心電図検査」の講義では循環動態と心疾患の特徴ある心電図の説明をしていただきました。認定心電検査技師の紹介もしていただきましたが電気生理の分野でも認定試験が入ってきたという事で今後、担当している技師にとっては大変励みになることと思います。次に「脳波検査」の講義では小児脳波の特徴と症例の紹介をしていただきましたが動画を入れての説明によって、貴重な症例（病態）を会員の方々には経験できたと思います。最後に「呼吸機能検査」では詳細な検査項目内容の説明とともに検査結果の解釈を分かりやすく説明していただきました。我々はただ単に測定結果の数値だけを理解するのではなく患者の身体の中にある肺の状態を思い描きながら検査をしなければならぬことを再認識致しました。最後の講師の方が言った「肺は美しい」とのくだりはまさに原点に戻り、画面ばかり見ながら大きな声で指示をだす検査業務になりがちな場面で思い出す価値のあるものと思います。

今回のセミナーを通じて思うことは、現在進んでいる団塊の世代の先生方がご退職をしてくている中、その後に残された者が全体のスキルを早急に上げていかなくてはならない事もこれからの課題であったと思います。しかし、大盛会であった熱気ある支部学会を見るとそれも解消されるのは時間の問題である事を確信いたしました。

最後に、講師の先生方および今回のセミナーを企画していただいた関信支部学会役員の方々に心より感謝申し上げます。

関信支部学会 輸血セミナー座長から

NHO 東京医療センター 深澤 文子

このセミナーは、輸血に関して日ごろ抱えている問題を何でも話し合える場が欲しい、そんな声にお答えできればと企画され、「輸血療法における諸問題の解決法をさぐる」をテーマに、三人の先生方に講演をお願いしました。まず、埼玉病院の岩崎主任技師には、血液型に関して、経験を踏まえた解決策を詳細に報告して頂き、特に輸血された異型血の鑑別方法については興味深く拝聴しました。特別にお願いした認定試験の受験談についてもモチベーションの保ち方や普段の勉強のやり方など、これから受験する若い技師の道しるべとなった事でしょう。相模原病院の後藤主任技師には不規則抗体について、これも実際に経験された自己抗体の事例を挙げ、自己抗体を吸収し同種抗体の有無を検索する方法を原理にまで踏み込んで、また、高頻度抗体の事例については、臨床とどのようにコンタクトを取って乗り切ったかについても、詳細に話して頂きました。今回のセミナーで、このような経験がより多くの技師の疑似体験となり、日常の問題解決に役立つ事と期待しています。次に、国際医療センター戸山病院の真鍋主任技師には技術的問題以外の事、医療安全のために輸血管理を行う検査技師が知っていなければならない知識について、広範囲にわたって話して頂きました。出庫時に確認すべき血小板のスワーリングを動画で見せて頂いたり、副作用や輸血





速度、輸液ポンプにまで踏み込んで話して頂きました。最後に昼食時間に食い込んでしまいましたが、質問もお受けすることができました。多少なりとも、疑問点の解明につながる事ができたでしょうか？私もそうでしたが、

中小の病院では、輸血検査は血液検査や免疫検査の片手間に言い、血液型や不規則抗体に問題が生じて「早く輸血したいんだけどな」と臨床に急かされながら一人で悩む事も少なくありません。そんな時こそ勉強のチャンスです。身近に先生が居られない方、ぜひシンポジストの先生方に相談してみてください。関信支部の仲間です、これからも快く相談に乗ってくださる事と思います。

関信支部学会 病理セミナー座長から

国立がんセンター中央病院 當 銘 良 也

「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令」（平成19年政令第375号）が、平成20年3月1日から施行されることに伴い、「特定化学物質障害予防規則等の一部を改正する省令」（平成19年厚生労働省令第155号）も同時に施行されました。この改正法は、これまでとは違いかなり厳しいホルムアルデヒド対策を取り扱い事業者に課しております。一部規定は21年2月28日まで猶与されていますが、設備環境を整える為には、相当の対策費がかかるためか、対応が完了した施設はまだ少数のようです。

このような時に『ホルムアルデヒド管理セミナー～あなたの施設の対応は～』というタイトルで病理セミナーが企画されましたことは非常にタイムリーであり支部役員の方々に敬意を表します。また、本セミナーを開催するに当たり、急なお願いにも係わらず事前アンケートを迅速にご協力して頂いた関信支部の全施設にお礼を申し上げます。また、1時間という長い講演時間にもかかわらず快く引き受けて頂いた東京医療センター山田晶主任技師、対策が進んでいる施設として、これまた急に追加発言をお願いした国府台病院の村田主任技師に感謝申し上げます。

今回のシンポジウムでは、山田主任、村田主任の講演から色々と参考になることが示され、またフロアーからも各施設の状況や、参考になる意見が多数あり、聴衆にとってもホルムアルデヒド対策の参考になったと思います。今回のシンポジウムを契機に、さらに施設間の情報を共有することにより連携が深まり、ホルムアルデヒド対策が進むことを願っています。



関信支部学会 緊急検査セミナー座長から

NHO 横浜医療センター 林 亮

臨床検査業務は多岐にわたり、臨床からの要求も深い知識が必要な事が多く、皆様もそれぞれの分野で日々努力されていることと思います。一方、医療の24時間体制が確立され、日当直あるいは夜間呼び出しなどの緊急検査では、横断的な広い分野の知識が必要になります。日ごろ携わっていない検査項目について、夜一人で検査をしていると不安になる方も多いのではないのでしょうか。

今回、関信支部学会において「三次救急医療施設 ～日当直の対応～」と題し、救急医療施設でご活躍されている、高崎病院 藤澤紀良先生、災害医療センター 緑川清江先生、国立国際医療センター戸山病院 林元久先生、水戸医療センター 吉田茂久先生をシンポジストにお招きし、検査業務の現状のほか、教育システム、緊急検査項目の内容、検査時のトラブル対応などについてご報告いただきました。

個々の報告内容については割愛しますが、検査業務の現状では救急搬送患者の疾患別割合や入院になる比率など施設毎に特徴があり、検査装置の選定や検査室の構築に関してもそれぞれの施設規模や現況にあった設定が必要となります。将

来的な構想も含めるとルーチン検査とのデータの互換性から同一装置での測定を行い、ルーチン検査時間帯においても検体検査の省力化につながる装置の配置、検査項目の選定では臨床より要望された項目を積極的に取り入れ、可能であれば24時間同一項目を測定できる検査室の構築が望ましいと思われる。教育システムについては複数の機器の操作、幅の広い知識、トラブル対応など一定レベルを保つため、新人や転勤者についての短期間な教育のみでなく、日当直に関わる人が定期的に学べる環境づくりや意識改革、検査科全体におけるボトムアップが図れるような体制作りも必要であり、使いやすく分りやすいマニュアルの作成も重要と考えます。また、トラブル防止の観点では検査システムによる異常値チェック、デルタ、ロジックチェックなどの導入、血清を使用する測定装置でのフィブリン検知機能など機器選定も重要と考えられ、さらに、不慣れた技師が困った時にいつでも、何度でも質問できる連絡体制およびトラブルを本人のみの経験にするのではなく、検査科全体で情報を共有する体制作りも必要です。

今回のテーマは三次救急施設における現状という大きなテーマのため、緊急検査業務の概論的な事が主体となりましたが、実際の不安解消には輸血検査や顕微鏡による形態検査などの各論についてのシンポジウムも今後必要と思われます。



・・・ 研修会のお知らせ ・・・

第2回国臨協関信支部主催研修会(微生物)

日 時：平成20年11月29日（土）13:00～16:00

場 所：国立病院機構 東京医療センター

1階 病棟会議室

講師と内容

〈13:00～14:00〉

講 師：渡 辺 靖 技師

（国立病院機構西新潟中央病院）

内 容：「抗酸菌検査の現状」

〈14:00～16:00〉

講 師：奥 住 捷 子 先生

（獨協医科大学病院医療安全管理部）

内 容：「感染制御における検査部の役割」

参加費：500円

今回は、抗酸菌検査と院内感染対策を中心に、日常業務に必要な基礎的知識と実践について講義していただきます。微生物検査に携わっている方、認定資格取得を目指す方、興味のある方、ぜひご参加ください。

人 / 事 / 異 / 動

【平成20年10月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
大 脇 佳 則	多磨全生園	技師長	沼 田	技師長
青 木 貞 男	沼 田	技師長	東 京	副技師長
上 南 條 敏 夫	東 京	副技師長	西埼玉中央	副技師長
古 谷 雲 功	西埼玉中央	副技師長	宇 都 宮	主任技師
菅 原 能 祥	宇 都 宮	主任技師	東 京	主任技師
河 川 恵 子	東 京	主任技師	栃 木	主任技師
小 川 樹 亮	栃 木	主任技師	宇 都 宮	技 師
菅 野 宏 美	精神神経センター	技師(採用)	がんセンター東	(非常勤) 技師
			精神神経センター	(非常勤) 技師

【平成20年9月30日付 退職・辞職者】

氏 名	施設名	役職名	職
飯 島 謙 二	多磨全生園	技師長	退 職
岩 崎 郁 恵	東 京	技 師	辞 職

地区会だより

第26回神奈川地区定期総会 学術・指導講演を終えて

神奈川地区事務局

平成20年3月1日(土)、かながわ県民センターにおいて、第26回神奈川地区定期総会・学術講演を開催致しました。関信支部より三浦支部長、吉田副支部長、木村理事のご出席をいただき、また統括部医療課、奥田 勲専門職には『これからの臨床検査技師にもとめられるもの』と題してご講演いただきました。

人事異動・経営参画・研修制度・登録選考試験・臨床検査部門経営管理統計・医療連携について、めまぐるしく変わる社会情勢・医療情勢のなかでここを原点とした臨床検査技師の重要性が認識されてくるという強いメッセージが込められていました。奥田勲専門職の熱意が強く伝わり、日頃専門職指導を直接聞くことの少ない技師・主任の方々にも良い機会になったことと思います。学術講演として『日常検査としての腹部超音波検査の見方』と題してNHO神奈川病院、研究検査科長、布施川 久恵先生にご講演いただきました。当施設の腹部超音波検査の症例を題材として日常、生理検査に携わっていない技師にも腹部超音波検査の見方、他の画像診断との比較などをわかりやすく解説していただき、大変に有意義な講義でした。

定期総会は横浜医療センターの並木技師長を議長に選出

し、平成19年度経過報告、会計報告、会計監査報告、平成20年度事業方針(案)、平成20年度予算(案)、次期役員について討議され承認されました。懇親会場に移りさらに盛り上がり大盛況のうちに滞りなく 定期総会、学術・指導講演を終えることができました。

関信支部理事の皆様、奥田専門職、神奈川病院の皆様には心より感謝申し上げます。

平成20年度 神奈川地区会役員名簿	
会 長	太 田 雅 司 NHO久里浜アルコール症センター
事務局長	今 村 ち さ NHO南横浜病院
理 事	坂 内 孝 弘 NHO神奈川病院
	山 田 大 助 NHO箱根病院
	若 林 弘 NHO相模原病院
	阿 部 真 利 NHO横浜医療センター



長野地区交流会に参加して

NHO 東長野病院 中 村 宏 紀

7月12日(土)に長野地区交流会が長野市学習センターにて開催された。当日は梅雨も明けきらない微妙な日であったが晴天に恵まれ、多数の会員が参加した。始めに、まつもと医療センター北原技師長より「統合におけるまつもと医療センター検査科について」と題した、松本病院・中信松本病院の組織統合による検査科の現状を講演していただいた。1組織2病院体制という全国初の組織のなかで、検

査科の組織や運営状況について採算性を重視しながら、検査科をどのように充実させていくか、将来像も含めての有意義な講演であった。協和メデックス学術担当者からは「特定検診について」の講演があった。厚労省のMS検診の導入目的や生活習慣病の現状、動脈硬化および脂質検査について詳しく説明していただいた。特に「メタボ」と聞くと、人ごとではない自分にとって興味深い内容であった。

終了後は少し早い暑気払いを開催した。特定検診の講演を聞いたあとにもかかわらず、すっかり忘れてアルコールや脂肪を大量に蓄積した。交流会の開催にあたり、地区理事の方々に感謝いたします。



編集後記 ●三年間、支部役員を経験させて頂き、多くの方々との出会いやご指導を賜りました事、大変感謝申し上げます。中でも地区会活動では、各地区での活発な活動状況や皆様との意見交換は大変刺激になり、身の引き締まる想いが致しました。関信支部は多くの方々に支えられ運営されています。今後も支部の益々の発展を願い一会員として協力して行きたいと思っています。ありがとうございました。

NHO宇都宮病院 松林 守

●三年間理事として支部活動に参加出来たこと、そして、多くの方々に出会えたことはとても勉強になりました。特に、支部の皆さんの何事にも前向きに取り組む姿勢は学習

ていきたいと思っています。今後は、一会員として支部活動に参加していきたいと思っています。

会員の皆様、支部理事の方々、そして成育医療の方々には大変お世話になり感謝しております。本当にありがとうございました。

国立成育医療センター 小松 久人

●会員の皆様に助けられ、支部理事の皆様、諸先輩の方々に守られて理事職を勤め上げる事が出来ました。会務を通じ様々な方との出会いが私にとって大変勉強になりました。また快く会務に送り出して頂いた東京病院のスタッフの皆様にも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

NHO東京病院 竹田 信邦

(今回の編集後記は、前広報担当からのご挨拶とさせていただきます。)